

7月6日(月)から、待ちに待った図書室の開館です。あわせて〈課題図書・伊丹市すいせん図書〉を含む夏休み貸出しも行います。

夏休み貸出し：1人5冊まで
〈課題図書・伊丹市すいせん図書〉は
7月6日(月)お昼休みから貸出開始 — 1人1冊

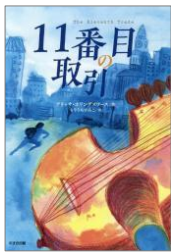
第66回 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。
青少年読書感想文全国コンクール

課題図書

全国学校図書館協議会 hp・e-hon hp・各出版社 hp より



「**天使のにもつ**」 いたうみく／著 童心社／出版社 1,430円
なんも考えてないんだ。あいかわらずアホだよなあ、風汰って。風汰って、いーかげんなのか、まじめなのか、ピミョーだよな。ふうたくん、すき。ふうたくん、またおこられたー。斗羽風汰君、おもしろい子ね。中学2年、斗羽風汰。職場体験先は、保育園デス！



「**11番目の取引**」 アリッサ・ホリングスワース／作 鈴木出版／出版社 1,760円
アフガニスタン難民のサミと祖父の生きる術であり、心の拠り所だった伝統楽器ルバブが奪われた！ 買い戻すには1か月以内に700ドルが必要だ。サミは友だちの助けを借りて自分の持ち物で物々交換を始める。たった1か月の間に700ドルを稼ぐという試みは果たしてうまくいくのか。



「**平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶**」 弓狩匡純／著 くもん出版／出版社 1,650円
「このままでは原爆のことが忘れられてしまう」と、勇気を振りしぼって話しはじめた被爆体験証言者の記憶を、広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが一年をかけて油絵に描いて記録する、『次世代と描く原爆の絵』プロジェクト。証言者と密に接することで、平和な広島で今を生きる高校生たちが戦争や原爆を見つめなおしていくさまを綿密に取材して描いた、平和について考えるノンフィクション。

伊丹市すいせん図書

日本文学



「**アドルフ**」 佐藤まどか／著 あすなる書房／出版社 1,540円
フルートとの電撃的な出会いから5年。ユージは岐路に立たされていた。本気でめざしても、プロになれるのはひと握り。クラシック音楽界のきびしさを目の当たりにした15歳のユージの決断とは…？イタリア、トスカーナの小さな町に暮らす少年ユージの青春音楽小説。



「**思いはいのり、言葉はつばさ**」 まはら三桃／著 アリス館／出版社 1,540円
友達のジュアヌが見せてくれたハンカチに刺繍されていた、女書(ニューシュ)。その美しい文字に、チャオミンは夢中になってしまう。中国・湖南省に実際に伝承されてきた文字をテーマにした児童文学。



「**しずかな魔女**」 市川朔久子／作 岩崎書店／出版社 1,430円
中一の草子は、学校に行けなくなってしまい、今は図書館に通う日々を送っている。ある日、ふとしたことをきっかけに、初めてレファレンスを希望する。やがて司書の深津さんから渡されたのは「しずかな魔女」というタイトルの白い紙の束。ふたりの少女の、まぶしい、ひと夏の物語だった。



「**スベらない同盟**」 にかいどう青／著 講談社／出版社 1,650円
「ひらめいた！おまえ、漫才の台本書けよ。」学校で不動の人気をほこるレオがいじめられている藍上と、コンビで漫才をする。これで、すべて解決する、はずだったのにー。



「**その声は、長い旅をした**」 中澤晶子／著 国土社／出版社 1,540円
四番町少年合唱団の第一ソプラノ・開は、謎めいた新入団員・翔平の声に衝撃を受ける。なんて声だ！翔平がライバルとなることを強く意識する開。やがて、距離を縮めるふたりに、つぎつぎと思いがけないできごとが…。変声期を前にした少年たちの心の揺らぎ、演奏会で起こった奇跡とは？そして、天正時代に生きた美声の少年・コタロウとは？



「**蝶の羽ばたき、その先へ**」 森楚こみち／作 小峰書店／出版社 1,540円
雨が好きだったのに、雨がきらいになった。傘を打つ、ぽつぽつという雨音が耳について、ほかの音を消してしまう。後ろからクラクションを鳴らされて、よけたつもりが逆になり、車が急ブレーキをかけた。ぶつかる寸前だった。突発性難聴で左耳が聞こえなくなった中学二年生の結。戸惑いや不安をかかえながら、結が決めたこととはー。



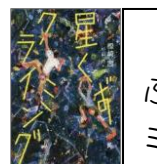
「**徳治郎とボク**」 花形みつる／著 理論社／出版社 1,540円
死を知ることは、生を知ること。悪童だったお祖父ちゃんから、無言のエンディングメッセージ。



「**天を掃け**」黒川裕子／著 講談社／出版社 1,650 円
 必要なら、何百夜かけてでも全天を搜索する。それが、掃天。短距離走者として期待されながらも、走れなくなった駿馬は、中学二年生の初夏、たったひとりで小惑星探索にいとむすばると出会う。



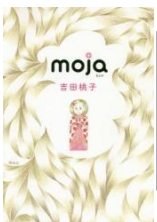
「**長浜高校水族館部!**」 令丈ヒロ子／文 講談社／出版社 1,650 円
 愛媛県立長浜高等学校。この学校には「水族館部」があり、生徒が水族館を運営している。生き物の命をあずかるこの部では、思いもかけないことがつぎつぎ起きて…。実在の部を徹底取材。事実をもとに部員たちのアツイ日々を小説化!



「**星くずクライミング**」 榎崎茜／作 くもん出版／出版社 1,430 円
 ふたりでなら見えない壁だって登りきれ。中学生のあかりが、パラクライミングと出会う物語。



「**みかん、好き?**」 魚住直子／著 講談社／出版社 1,540 円
 西村拓海の前に突然あらわれた、少し変わった話し方をする女の子・長谷川ひなた。拓海の祖父が作るみかんに感動して東京からはるばるやってきたという。困惑する拓海をよそに、ひなたと祖父はどんどん仲良くなり、いつのまにやら一緒にみかんを育てることに…。瀬戸内海の島を舞台に、拓海と風変わりな女の子・ひなたが繰り広げるボーイ・ミーツ・ガール!



「**moja**」 吉田桃子／著 講談社／出版社 1,430 円
 主人公は毛深いのが悩みの中二女子。たかが毛、されど毛。悩める乙女の明日はどっち!? 悩みを解決するまでをユーモラスに描きます!



外国文学



「**ゴースト**」 ジェイソン・レノルズ／作 小峰書店／出版社 1,650 円
 中学1年の主人公の少年は、父親のいない貧しい生活に引け目を感じ、周囲とも馴染めず距離を置いていた。逃げ足の速さから自分つけた呼び名が「ゴースト」。ひょんなことから地元の陸上チームに入ることになり、それぞれ悩みを抱えるチームメイトや監督との関係を通して、自分の才能、弱さと向き合っていく成長の物語。



「**スアレス一家は、今日もにぎやか**」 メグ・メディナ／著 あすなろ書房／出版社 1,650 円
 メルシは、サッカーの得意な女の子。名門校に編入し、中学生になったのはいいけれど、クラスメイトはリッチな子ばかり! メルシの自転車はぼろぼろで、新しい自転車を買うためにアルバイトをしたいのに…。



「**天才ルーシーの計算ちがい**」 ステイシー・マカナルティ／著 講談社／出版社 1,650 円
 ルーシーはある日、雷に打たれて、数学の天才になってしまいました。でも、変わったのは良いことばかりではなく、潔癖症になり、学校に行けなくなりました。大学進学だって可能な12歳のある日、おばあちゃんがルーシーに課題を出します。それは、中学校に1年間通い、友だちを1人作ること、課外活動1つに参加し、数学の教科書以外の本を1冊読むことでした。このミッションが、ルーシーの人生を大きく変えるのでした。



「**ぼくにだけ見えるジェシカ**」 アンドリュー・ノリス／作 徳間書店／出版社 1,650 円
 ファッションに興味を持つフランシスは、「男のくせに」とからかわれ、学校で孤立していた。ところがある寒い冬の日、校庭のベンチでひとりで昼休みを過ごしていると、ノースリーブの女の子が同じベンチにやってきた。幽霊の少女との友情を通して変わってゆく少年と仲間たちの姿を描く、ちょっと不思議な、あたたかい物語。



「**ぼくの帰る場所**」 S・E・デュラント／作 鈴木出版／出版社 1,760 円
 AJは、走ることが得意な11歳の男子。同じ年齢の他の子たちと違うところは、両親には学習障害があって、お金のことや書類のことが処理できないということ。AJに走る喜びを教えてくれたおじいちゃんが常に家族を支えてくれていたが、突然亡くなり、AJの生活は一変する。



「**リスタート**」 ゴードン・コーマン／著 あすなろ書房／出版社 1,760 円
 ある日目覚めたら、自分がだれなのかわからない。名前もわからないし、鏡を見ても映っているのは知らない顔…。それが13歳の主人公チェースの身に起こったことでした。(中略) おそろおそろ新しい人生を歩みはじめたチェースの不安やとまどい、いらだち。もがき苦しむチェースに次々とおそいかかる事件。そして、すこしずつよみがえる記憶。はたして、唯一のこっていた記憶の青いドレスの少女は…。(訳者あとがきより)



ノンフィクション



「**食べるとはどういうことか 世界の見方が変わる三つの質問**」 藤原辰史／著 農山漁村文化協会／出版社 1,650 円
 「食べる」ということを深く考えれば考えるほど、「人間とは何か」が見えてくる。京大のフジハラ先生と12歳~18歳の中高生による、白熱の「食と農の哲学」ゼミナール。



「**クマムシ調査隊、南極に行く!**」 鈴木忠／著 岩波書店／出版社 1,056 円
 南極観測隊に参加した著者。白夜の夏、キャンプのような野外調査。時に笑い、時にぶつかり、苦楽をともにする仲間たち。砕氷艦「しらせ」には大学や露天風呂がある? 寄せては返すペンギン、土下座をする隊員…。生物学者が見た極地の自然と観測隊の日常を、貴重な写真とユーモアあふれる文体でつづる!